

第17回五霞町青少年の主張大会



第17回五霞町青少年の主張大会が「いばらき教育月間」期間中の11月10日、中央公民館講堂において盛大に開催されました。

当日は、町長をはじめ町議会議員、教育委員、各小中学校PTA会長、社会教育委員、民生委員、青少年育成町民会議委員など多数の来賓や一般聴聞者が出席する中、各小中学校から選抜された10名の児童生徒が、日ごろの考えや思い、また将来の夢などを力強く発表しました。

受賞者は次のとおりです。

《受賞者名》 (敬称略)

〇五霞町青少年問題協議会長賞

五霞東小学校6年

小村 宗遵

〇五霞町議会議長賞

五霞中学校3年

鞠子 琴美

〇五霞町教育委員会教育長賞

五霞西小学校6年

松本 麗可

〇青少年育成五霞町民会議会長賞

五霞中学校1年

中山 彩音

〇五霞町青少年相談員協議会長賞

五霞東小学校5年

青柳 優衣

〇優秀賞

五霞西小学校5年

篠崎 清香

五霞中学校1年

小川 永里子

五霞中学校2年

高山 英里佳

五霞中学校2年

曾根 千聖

五霞中学校3年

杉本 智恵



ボランティア活動から学んだこと

五霞東小学校
6年 小村宗遵

「グラグラッ」「ガタンガタン」

3月11日、午後2時46分。激しいゆれが東日本をおそいました。ぼくはその時、学校にいました。体が左右に大きくゆれ、立つていられずその場に座りこんでしまいました。無量寺という浄土宗の寺でもあるぼくの家に帰ると、屋根からはかわらが落ち、墓所を見ると墓石がたたくさん倒れていました。ぼくは、あまりのショックで自分でも気がつかないうちに、泣いていました。

テレビで、東北地方の沿岸部に津波が来て多くの家が流され、亡くなった人も多数いることを知りおどろきました。また、東京でも電車がとまり、帰宅できない人がたくさんいることも知りました。ぼくの父もその中の一人でした。父たちは、一晩中寝ないで帰宅できないでいる人たちに、トイレを貸したり、飲み物やおにぎりを提供したそうです。

翌日から、被災者を助けるために、多数の人たちが動き出しました。また、アメリカをはじめ、世界中が日本を応援してくれました。その様子を見てぼくは、「ぼくにできることを何かやりたい。」と強く思いました。すると、父の職場で、救援物資を送るという話を聞きました。「これならばくにもできる。」そう思い、3月27日、まだ余震の続く中、東京にある父の職場に向かいました。そこには、缶詰やインスタント食品が山のように積み重ねられていました。ぼくは、それらを種類ごとに分け、箱に詰める手伝い

をしました。

ボランティアとは、自分から進んで何のみかえりも求めず、人のために何かをすることです。ぼくはこれまで、ボランティアという言葉は知っていましたが、今回初めて、ボランティアを体験してみても、その大切さを知ることができました。人の役に立つということは難しいけれど、体験してみると充実した気持ちになりました。

そこで、みんなが気持ちよくなるためにできることは、ほかにどんなことがあるかを考えてみました。

まず、今回の震災で被災した人たちのためにできることは何でしょうか。

例えばその一つに、節電があると思います。一人一人が節電を心がけることにより、被災地にも安定した電力を供給することができるのです。みんなが少しずつでも協力し合えば大きな力になることでしょうか。

ほかに、被災した小学校に手紙を送るといのはどうでしょうか。「一日も早い復興を祈っています。」というぼくたちの思いを伝えたいです。このことで、みんなが元気になつてくれたらぼくはうれしく思います。次に、ふだんの生活でできることは何でしょうか。

例えば、通学路や学校に落ちていいる空き缶やゴミを拾う。大きな声で元気よくあいさつをする。このようなことも、みんなが気持ちよく過ごすための大切なボランティアの一つだと思います。

ぼくは、今回初めてボランティアについて真剣に向き合うことができました。これからも、身近なことから進んでボランティア活動に取り組んでいきたいと思っています。みなさんも、身近なことからボランティア活動を始めてみませんか。